

総合特別区域の進捗に係る評価
〔国際戦略総合特区〕

令和3年度

アジアヘッドクォーター特区

〔指定：平成23年12月、認定：平成24年7月〕

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 (5+4.3)/2=4.7

4.7

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	外国企業のアジア統括拠点及び研究開発拠点の誘致数	100%	5
2	外国企業と都内企業との引き合わせ件数	128%	5
3	金融系外国企業の誘致数	150%	5
4	その他の外国企業の誘致	138%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 (5×4+4×0+3×0+2×0+1×0) / 4 = 5

5.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 (4.7+5+5)/3=4.9

4.9

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.7

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

5.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

5.0

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.3

- ・本特区は今まで良い成果を上げてきたと思うが、近年はその成果の現出が鈍化しているような印象を受ける。東京は日本の中で突出して条件に恵まれているので、その恵まれた環境を活かして成果の現出をリードして欲しい。
- ・着実な事業の進展が見られることは高く評価される。コロナ禍からの経済回復の中で規制緩和等の積極的な活用を期待する。
- ・東京という地理的なアドバンテージを活かして、コロナ禍下においても高い成果を上げていると思う。しかしながら、もはや東京に課せられた課題は東京エリアのみにとどまらず、他の地域(ひいては日本国内)への拡充を視野に入れてほしい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.3

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.7+4.9+4.3 \times 2) / 4 = 4.6$

4.6

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。